

令和3年度版『中学社会地理的分野』 年間指導計画案－評価規準の参考事例－

はじめに

- この資料は、日本文教出版の令和3年度版『中学社会地理的分野』教科書に基づいて学習指導計画を作成するための参考資料としてまとめたものです。
- 地理的分野に配当される授業時数は115単位時間ですが、この年間指導計画案は、総授業時数を103時間とした学習指導計画案です。予備時間は「〇〇州（〇〇地方）をふりかえる」にあてると、実際の指導にあたっては、各地域・学校の実情にあわせて弾力的な学習指導計画を編成してください。
- 評価の観点については、令和2年3月に示された国立教育政策研究所・教育課程研究センター「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（中学校 社会）」に従い、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を設定しています。
- 上記「参考資料」の巻末資料に掲載された「内容のまとまりごとの評価規準（例）」をもとに、本書P. 4以降には、教科書の編・章・節に対応した評価規準を目標とともに示しました。
- この資料における「評価規準」とは、「おおむね満足できる」学習状況を表しています。その評価規準を参考にし、生徒一人ひとりの学習の確実な定着が図られているかを評価し、「努力を要する」学習状況か「十分満足できる」学習状況かを判断していただくこととなります。
- 評価計画作成の留意事項として、単元という学習のまとまりで学習評価を計画し、各観点の特質をふまえて評価場面を設定することや、評定のための資料として用いる評価（「評定に用いる評価」）と、評定のための資料としては用いないものの、生徒を認め励まし、日常の学習改善につなげる評価（「学習改善につなげる評価」）を適切に位置付けることがあげられます。
本書P. 4以降の1単位時間ごとの「評価規準」のなかで、「評定に用いる評価」として考えられるものに★をつけて示しました。各学校で編成される学習指導計画に基づいて評価計画の作成をお願いいたします。

※本資料は、今後内容を更新する可能性があります。ご了承ください。